



立秋とは名ばかりで、暑さが続いています。今月は、読売愛と光の事業団の助成を受けて活動をしている「ケア帽子有志の会」の近況についてご報告します。

8 月



「ケア帽子有志の会」～活動軌道にのる～



東広島地区医師会では、緩和ケア部会の医師が中心となって、がん患者や家族が気軽に集まれる集いの場を提供することを目指して、「ココロの駅舎」の活動を2012年12月から始めている。現在は東広島市在宅医療・介護連携推進事業の一つに位置付けられ、毎月1回第4木曜日に、東広島芸術文化ホールくらら で集いを開催している。(事務局;地域連携室あざれあ)

この集いでは、昨年度乳がんの患者を中心として、「ケア帽子有志の会」が発足した。この会は、「自らの経験を生かして、同じ病気と向き合うがん患者にケア帽子を送りたい。」という、がん患者の思いを形にする有志の集まりだ。

2023年1月、この活動が認められ、読売光と愛の事業団が実施する「がん患者在宅療養支援事業」の助成先に選ばれた。同団体の助成によって、現在までに200余りのケア帽子が出来上がった。帽子は広島県内のがん診療連携拠点病院を中心に送付し、医療機関を窓口として必要な方に手渡してもらっている。



最近では小児用のケア帽子作りも始め、幅広い層に帽子を使ってもらえるように、大きさやデザインにも工夫を凝らしている。

帽子を手にした人からは、「肌触りが抜群」

「やわらかいニット素材なので楽にかぶれる」「ラッピングにまで心配りしてくれていることがわかる」「安心して抗がん剤治療に向き合える」などの言葉が寄せられている。こうした一言が、有志の会の活動の原動力になっている。

がんに向き合い、共に生き、支える「ケア帽子有志の会」の活動は、これからも続く。

